

神の祝福を求める熱心さ

ホセア書12章

ヤコブは胎にいたとき、その兄弟のかかとを捕え、成人したとき神と争った。彼は天の使と争つて勝ち、泣いてこれにあわれみを求めた。彼はベテルで神に出会い、その所で神は彼と語られた。(3、4)

神に背くイスラエルの民に対する警告が続けて語られる中で、彼らの先祖ヤコブの物語を取り上げて戒めを語ります。

ヤコブという名は「押しつける者」という意味で、彼はその名のとおり、父と兄をだまして長子の権を奪い取りました。多くの弱さ、醜さを見せたヤコブでしたが、彼の長所は、神の祝福を貪欲に追い求める姿勢でした。彼はヤボクの渡しにおいては神の使いと争い、「わたしを祝福してくださいさらないなら、あなたを去らせません」(創世記三二26)とすがりつきました。そしてついに、神の祝福を得たのです。イスラエルという名は、主がそのときにヤコブに与えてくださった名前でした。それゆえイスラエルの民は、神の祝福を熱心に追い求めるヤコブのこの姿勢を受け継ぐべき者たちでした。ところが、彼らは主の祝福よりもバアルの神の祝福を慕い求めたのです。主は今ヤコブの物語を引き合いに出しながら、「あなたはあなたの神に帰り、いつくしみと正しきとを守り、つねにあなたの神を待ち望め」(6)と勧めました。神は常に、熱心に祝福を求める者たちに豊かな恵みを注いでくださるお方なのです。新しいイスラエルとしての教会は、ヤコブのこの姿勢にならう者たちです。わたしたちも神にしがみつくようにして、その祝福を追い求めようではありませんか。